

伊藤俊一(監修)
久保田健太・隈元庸夫(編集)

PT・OTのための測定評価 DVD Series 7 片麻痺機能検査・協調性検査

評者 望月 久
(文京学院大学保健医療技術学部理学療法学科)



理学療法士(以下, PT)や作業療法士(以下, OT)が実施する神経疾患に対する検査法の多くは神経内科学的検査に基づいているものが多い。神経内科学的検査では、定まった方法を用いて患者に刺激や指示を与え、それに対する患者の反応や動作を評定する。定量的な評定が難しく、異常の有無や異常の程度(軽度・中等度・重度など)によって評定することが多い。そのため、神経内科学的検査には経験が必要とされる。

PT・OTの教育場面でこれらの神経内科学的検査を学生に指導する際の難しさがここにある。測定評価の修得には、まず定まった検査方法を理解し実施できる段階があり、次に検査の結果を評定する段階がある。学生は患者を見たことがなく、教師からの説明やテキストの図や写真から、患者の症状、検査時の患者の反応や動作を想像するほかない。これを補うために動画の教材が使用される。PT・OTのための評価測定シリーズは、PT・OTの学生が必須とする検査について、基本的な検査方法や検査に際しての注意点が簡潔な説明と図および動画で示されており、PT・OT養成校の教員や学生の間で好評を博してきた。

今回、評価測定シリーズの7冊目として、「片麻痺機能検査・協調性検査」が発刊された。既刊の評価測定

シリーズと同様に、簡潔な説明と図および動画により、検査方法が具体的にわかりやすくまとめられている。特に、ブルンストローム片麻痺機能検査はPT・OTであればだれでも知っている片麻痺の検査法であるが、テキストごとに検査方法の解説や図に違いがあり、検査法を動画としてわかりやすく示すためには企画や作成の段階で多くのご苦労があったと思われる。また、本書には健常者のモデルによる検査方法の動画に加えて症例の検査場面の動画があり、実際の患者が検査時にどのような反応や動作を示すのかを学習することができる。症例の検査結果についての解説があればより学習が深まると思うが、それではテキスト任せになってしまうので、これは講義のなかで教員がすべきことであろう。

本書は、学生にとっては基本的な検査方法の修得、臨床の理学療法士にとっては臨床で行っている検査方法の確認、教員にとっては頼れる教材としておおいに活用できる一冊である。

● B5判, 140頁, 4色刷, DVD 50分

定価: 本体 3,800円+税

三輪書店刊, 2015年